

第 55 回材料研究委員会

開催日：2月15日。出席者：大橋委員長，ほか 12 名。

「鋼材の破壊靱性に対する高純化の影響」について各社で行っている研究のまとめ案を提出いただき検討を行った。委員会としては5月中旬までに原稿を完成させ、委員会報告を出版する予定であり、鉄と鋼にも同時にまとめを報告することとした。

鉄鋼技術情報センター

第 21 回センター運営委員会

開催日：1月25日。出席者：染野委員長，ほか 13 名。

1. 第9回センター共同研究会 報告
2. センター編集委，情報検索委，図書資料委 報告
3. 図書室入室者数，収集物件数，端末機利用状況，JICST 受託作業状況 報告
4. 昭和 59 年度3月～12 月センター収支実績について
5. 昭和 60 年度センター収支予算(案)について
6. その他，1) 鉄鋼協会 70 周年事業計画状況，2) VDEh からの技術情報センター事業の紹介

情報検索委員会 第 27 回幹事会

開催日：1月21日。出席者：加畑委員，ほか 9 名。

1. 『第2回 IR 研究会報告書のまとめ』の検討
2. 講演会の検討
“海外の物性データについて” (仮題)
3. 見学会の検討
3月 野村総研の予定

鉄鋼基礎共同研究会

第4回高純度鋼部会 開催日：1月31日。出席者：木村部会長，ほか 29 名。開催地：住金・東京本社。

1. 各委員よりの発表
(1) 純鉄および低炭素鋼の回復，再結晶，集合組織におよぼす C, N の影響 (東 大)

(2) ステンレス鋼すきま腐食における材料問題 (東 大)

(3) 鉄鋼の高温酸化物の形態と物性に及ぼす微量元素の影響 (東 大)

(4) HSLA 鋼の変態挙動に及ぼす不純物元素の影響 (川 鉄)

(5) 転動疲労強度に及ぼす非金属介在物の影響 (山 特)

(6) 工具鋼における特性と不純元素 (日立金)

2. 今後の部会の進め方について

第 19 回融体精錬反応部会 開催日：1月21日。出席者：森部会長，ほか 27 名。開催地：鋼管・高輪クラブ。

1. 研究発表 計 5 件
(1) スラッグ-熔融金属間反応系の物質移動速度に及ぼすガス吹込み攪拌の影響
(2) 液体金属中への吹込みガスの分散挙動と気液混相の流動
(3) 酸化鉄系スラッグへの石灰の飽和溶解度に及ぼす P_2O_5 の影響および溶鋼-石灰飽和スラッグ間のリンの分配について
(4) 石灰系フラックスによる溶鉄予備処理の最適化
(5) 連続溶解還元炉の還元特性 (補遺)
2. 部会報告書発行計画について
3. その他

第 10 回鉄鋼の環境強度部会

開催日：2月6日。出席者：駒井部会長，ほか 26 名。開催地：住金・大阪住友クラブ

当部会では共通試験を実施しすでにかんがりのデータが提出されている。これらデータの解析を行うため作業グループを設け作業を進めることとした。又 60 年度の部会の運営スケジュールが部会長より提案され承認された。本年は通常部会 (4 回開催) 以外に前記共通試験の解析結果を中心にして 11 月 21 日にシンポジウムを開催する予定である。このほかに共通試験データの報告を各機関より行い，活発に議題を行った。

訂 正

論文 「 Li_2 金属間化合物の強さの結晶粒度依存性」 (鉄と鋼, 70 (1984) 15, p. 1870)

p. 1876, Fig. 10 下, 本文の一部を次のとおり訂正させていただきます。

(誤)

Ni_3Al 中の Ni の拡散に対する活性化エネルギーを HANCOCK⁶⁰⁾ は 26.1 kJ/mol と, また Ni_3Al におけるクリープの活性化エネルギーを FLINN⁶¹⁾ は 28.0 kJ/mol, ROWLINGS⁶²⁾ は 7.2 kJ/mol と報告している。

(正)

Ni_3Al 中の Ni の拡散に対する活性化エネルギーを HANCOCK⁶⁰⁾ は 303 kJ/mol と, また Ni_3Al におけるクリープの活性化エネルギーを FLINN⁶¹⁾ は 325 kJ/mol, ROWLINGS⁶²⁾ は 315 kJ/mol と報告している。